平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ９７ ※記入不要	提案機関名	神奈川県果樹組合連合会

要望問題　太粒ブドウにおける植物成長調節剤利用法の確立

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

〈背景〉
近年の消費者ニーズを反映して、大粒ブドウでも無核栽培が増加してきた。無核化に必要な植調剤の登録拡大等が進み、本県の主力品種である「藤稔」などでも使用が可能になっている。

〈内容〉
本県の主要な栽培品種における植物成長調節剤の効果的かつ効率的な利用法についての研究を要望する。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：生物資源部	
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名
優良種苗の特性検定試験（H7～）
（１）優良種苗特性検定試験
ウ　果樹品種の特性検定と優良系統の地域系統適応性検定試験
巨峰系４倍体品種における、植物成長調節剤の適正利用法の検討

対応の内容等
農業総合研究所では、昨年度から、巨峰系４倍体品種約１０品種に対する無核化を目的とした植調剤処理法を検討してきており、一定の成果を得ています。これまでのところ、満開期（該当する品種の全花穂のうち８０％開花した花穂が全体の８割を超えた日）において、ジベレリン 25ppm 液にストレプトマイシン 200ppm 液を加用した溶液を花房浸漬し、さらに満開 10 日～ 14 日後にジベレリン 25ppm を果房浸漬することにより、大部分の４倍体品種において、95%以上の無核化が達成されることが明らかとなっています。しかしながら、年度あるいは樹齢による変動も考慮する必要があるため、今後も、当所に植栽されている巨峰系４倍体品種（巨峰、ピオーネ、藤稔、安芸クイーン、紅義、多摩ゆたか、ハニービーナス、シャインマスカット、ゴルビー、ロザリオビアンコ、レッドクイーン等）を中心に検討を進めていきます。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	